

北海道

NO 131

平成27年11月1日

碎石だより

(一社)日本碎石協会北海道地方本部

電話 011-241-4579 FAX 011-272-4685

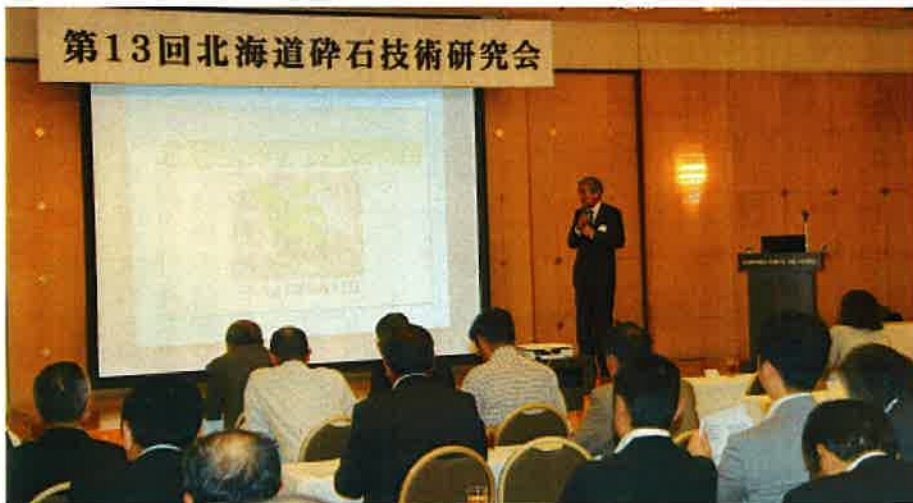
第13回 北海道碎石技術研究会特集

平成27年9月17日(木)

会場 札幌東急REIホテル



岡本繁美本部長
《開会のご挨拶》



第13回北海道碎石技術研究会



一般社団法人
日本碎石協会
西村耕一会長



北海道地方本部
平沼副本部長



宮本副本部長

会員発表 トップバッター 奈江採石協同組合 源田茂男氏

北海道碎石技術研究会懇親会

乾杯！！

中締めは、二世紀の会を代表して青木理事より



◆第十三回◆「北海道碎石技術研究会」開催される

9月17日、札幌市内東急R E Iホテルで2年に一度の「北海道碎石技術研究会」が開催されました。今回で13回目となり、会員、賛助会員をはじめ、北海道経済産業局、北海道、札幌市など監督官庁の担当官や、(一社)日本碎石協会から本部、関東地方本部、茨城支部さざれし会からの参加を得て、総勢約百十名に及ぶ盛会となりました。

講演テーマは4課題、①源田茂男氏による会員発表「採石跡地の緑化施工事例」、②平中正弘氏・高田浩氏による賛助会員発表「お客様の要望を追求した『新型破砕機レクゼンリーズ』」、③斉藤悟郎氏・阿部祐大氏による会員発表「クラウド活用で顧客管理と営業支援」、そして④本田健弥氏による特別講演「火薬の歴史と発破の移り変わり」でした。

懇親会では、平沼副本部長による開会挨拶ののち、西村会長より「北海道は新幹線の延伸など今後明るい部分もある。今後も知恵と勇気をもって採石業の発展に努めてほしい」と、北海道会員への激励を含めた祝辞を頂きました。宮本副本部長の乾杯で始まった宴は盛り上がり、二世紀の会を代表し青木理事の中

締めにより終了しました。

翌日18日に開催された恒例の交流ゴルフコンペにおいては、25名の参加者が札幌南ゴルフコース駒丘コースで日頃の腕前を披露し、宮本博功様が優勝されました。

◇岡本本部長開会挨拶◇

日本碎石協会北海道地方本部の第13回「北海道碎石技術研究会」を、北海道碎石協同組合連合会並びに北海道国有林採石協会の協賛を得て開催するに当たり、主催者を代表して一言ご挨拶申し上げます。

本日は、多くの会員・賛助会員にお集まりいただき、また、日本碎石協会からは西村会長はじめ、友田専務理事、関東地方本部、茨城県支部「さざれし会」の皆様にもご参加もいただき、ここに盛大に本研究会を開催できますことに、まずもってお礼申し上げます。

また、日頃ご指導を頂いている北海道経済産業局、北海道森林管理局北海道および各地の振興局、そして札幌市の各行政機関の方々にもご参加していただきまして、心より感

謝申し上げます。

この「碎石技術研究会」は、碎石業に従事する者が日々取り組んでいる事例などを紹介し、会員各企業の経営ならびに技術の改善や向上に役立てることを目的に開催しているもので、平成10年の第一回から数え、今回で13回目となりました。

この間、経済情勢や骨材需給情勢が大きく変動し、会員企業は碎石業を取り巻く厳しい環境の中を、並々ならぬ努力を続けてきています。北海道経済も政府の景気対策の効果から景気回復の兆しを感じられるようになってきたと言われていますが、碎石業界は、円安に伴う資材・機材の値上がり、電気料金の再値上げなどを受けて、生産コストが上昇している状況にあります。政府の経済対策が我々末端まで届くようになることを期待しつつ、同時に我々自身も引き続き経営努力、技術向上を通じた生産性の維持向上と経営の安定化に向けた取組をしっかりと進める必要があると考えています。

本日の研究会においては、会員・賛助会員から3課題の発表、そして三田商店の本田化薬課長様より特別講演を頂くこととなっております。会員各企業が様々な取り組みを進めるうえで、本日の研究会が意義

あるものとなるよう、期待しているところであります。

なお、労働安全確保のお願いをします。今月に入り、関東と関西で二件のいたましい災害が続いて発生したとの連絡があったところです。北海道地方本部としては5月の通常総会において、ゼロ災害をめざして労働災害防止の取り組みを進めることを運動方針としたところであり、会員各位においては、リスクマネジメントの導入や危険予知訓練の励行を通じ、また安全に係わる各種規則等の遵守状況の点検を今一度しっかりと行って頂き、会社一丸となった安全体制を構築して頂きたい、とお願いいたします。

最後になりますが、本日本大変お忙しいところご講演いただきます講師の皆様には、こころよりお礼申し上げます。開会に当たってのご挨拶いたします。

○会員発表I

「採石跡地の緑化施工事例」



奈江探石
協同組合
専務理事
源田茂男氏

採石跡地における緑化は、岩盤の露出、石礫等の混入、土壌の貧栄養素、動物の食害など、厳しい環境下での実施になる。20年に及ぶ緑化の取り組みの経験を踏まえ、そうした環境下において緑化を成功させるための条件と工法を、3つにまとめて説明された。

①「緑化資源確保工」 採石地開発はまず剥土から始まるが、この段階から、緑化資源を確保しておくことが成功の秘訣になる。表土は在来の樹木の種子や草本類が豊富に存在し、また理化学性の良い土壌である。したがってそうした表土や広葉樹の切株を保存し、それを採石跡地整備の時に活用する。

②「植生条件整備工」 客土により植物の活着率や樹木の実生発芽率を高める。客土層は0.7～1.0m以上の厚さとする。客土が終われば緑化工の7割は終了、と考えてよい。

③「植栽工」 採石跡地は植物生育環境が劣っているので、樹種選定と植え方が大事である。ハンノキ等先駆樹種の混植、小さい苗木(30cm下)や挿し木の活用、乾燥からの根系の保護(根に土を絡める)など、様々な工夫で緑化が進む。また、切り株の植栽により、萌芽が期待でき、枯れたとしてもその周辺から多種多様な木本草本類が芽生える等など、効果がある。

発表では、3カ所の緑化施工地での具体的施行例が画像で映写され、3つの工法のコツと成果が分かりやすく解説されました。

○賛助会員発表

お客様の要望を追求した
「新型破砕機レグゼシリーズ」



北海道川重建機(株)
環境システム部
部長 平中正弘氏

㈱アーステクニカ
技術部
破砕技術課
課長 高田 浩氏

砕石業においては需要の下げ止まりと回復基調から、必要生産量・稼働時間の増加傾向に伴い、人手不足や経験不足などの人材面、機器の老朽化などの設備面での課題が生じる。こうした中で、砕石プラント造りについては生産性の向上、省力化・省人化、製品品質向上・ランニングコスト低減などへの対応が求められている。

発表では、まず前半で、砕石プラントに求められるそれらのニーズを踏まえて開発された「レグゼシリーズ」の特徴が紹介された。開発は、破砕能力向上、分かりやすい操作等、メンテナンス省力化、長寿命化をめざし、REXEMIL、REXECORン、REXEXジョーのそれぞれについての改良点と性能向上ポイントが説明された。

後半では、課題解決にむけた生産プラント造りの具体的な3つの実例が紹介され、①プラント工程における生産効率の向上(老朽化機器の更新に合わせて生産能力・保守性を向上させる)、②3次破砕設備の合理化(生産能力向上により機械設備を集約する)、③製砂の生産効率向上(ボトルネック部分を解消する)などの改善事例について具体的な提案・説明が行われました。

「クラウド活用で
顧客管理と営業支援」

○会員発表II



(有)齊藤砂利工業
代表取締役
齊藤悟郎氏

(株)セルスフォース・
ドットコムコマースィヤル
営業本部
カウントエグゼクティ
阿部祐大氏

クラウドとは、各種データを自分のパソコンや携帯端末などの中ではなく、インターネット上に保存する使い方・サービスのことであり、クラウドを利用することによって、自宅・会社・外出先など様々な環境からインターネットに接続し、自由にデータを閲覧し編集することができる。

発表では、この特徴、つまり、営業などに関するデータについて「いつでもどこでも」「情報の共有化」が可能となることについて、例えば、営業先への訪問件数、売上実績などの顧客情報を一元的に管理・共有できることなど、石の採掘場所における情報も随時記録・参照させることができることや、クラウド活用の特徴について説明された。引き続き様々な具体的活用事例が紹介され、①ダンプ車の運転日報と納品伝票の2つをクラウドに取り込むことによつて、お金の流れと業務のフローが随時明確に把握可能となっている。②従業員が顧客の情報や受注などの業務情報を書き込むことにより部門間の連携も促進され、会社全体の効率化につながっている。③データ集計やグラフ化が容易に行えるので一元「見える化」管理を実現している。④従業員からの情報発信により仕事の段取りや準備が事前に行え、従業員への作業指示も的確に

行えるようになった。⑤リアルタイムな情報確認ができ、迅速な判断につながっている。など、クラウド導入による効果の事例が、実際の操作画面を含めて紹介がありました。

○特別講演

「火薬の歴史

と発破の移り変わり」

(株)三田商店札幌支店化薬課

課長 本田健弥氏



慶應二年（西暦1866）ノーベルのダイナマイト発明以降の火薬の発展を、世界、日本の歴史の流れの中でまとめた年表を作成して頂き、それを見ながら様々の出来事や事件を解説して頂きました。

特に、三田商店（三田火薬販売所）が明治27年（1894）に盛岡で設立されたから、昨年で120周年を迎えられたとのことで、随所に三田商店の発展の歴史も交えながらの説明でした。

映画「恐怖の報酬」、青函トンネル建設での火薬利用実績、国内での火薬事故、なども織り交ぜながら、

新火薬の発明などの火薬発展の歴史が説明され、後半では映像をみながら安全な発破の作業風景について解説を加えて頂きました。

火薬の使用に当たって効率的な使用や、安全確保の大切さについて一層理解を深めることができ、大変有意義な特別講演でした。

砕石フォーラム2015

「第42回全国砕石技術大会(盛岡)」

10月15～16日、(一社)日本砕石協会本部主催（骨材資源工学会後援）による第42回「全国砕石フォーラム盛岡大会」が、盛大に開催されました。本年、岩手県砕石工業組合が40周年を迎えたことを記念し、岩手県盛岡市で開催されることとなったもので、四百名を超える会員・賛助会員が集まりました。

協会会員による一般講演が6課題、賛助会員講演が10課題、研究助成事業報告が3課題、特別講演が2課題となっています。

道本部からは、岡本興業(株)北海道砕石事業部の清野幸夫次長が、「砕石の新たな活用『D・BOX工法』」を発表しました。この工法は、泥炭層や軟弱地盤でインフラ整備を行ううえで重要な地盤対策として効果のある工法で、砕石の新規用途開拓として大いに期待されるも

のです。その原理、仕組み、具体的な施工法の説明と、効果について発表されました。

なお、特別講演では、日本砕石協会能力向上テキスト作成委員会座長の高木元也氏（独立行政法人労働安全衛生総合研究所首席研究員）より、「砕石業における死亡災害再発防止対策」の講演があり、ヒューマンエラーを踏まえた本質安全化対策について詳しい説明がありました。その内容は、「砕石業における現場責任者 能力向上テキスト」改訂版に掲載されています。大変わかりやすい実務的内容となっており、会員の皆様に活用されることが期待されます。

◆販売開始◆

採石業における現場責任者（採石のための掘削作業主任者及び職長）能力向上テキスト』
お問合せ先 各支部・道本部
価格 8,640 円
※会員割引価格 4,320 円



※今後の予定

- ◆合同理事会 平成27年12月8日(火)
日砕協道本部・砕石組合連合会
会場 東京ドームホテル札幌
- ◆採石のための掘削作業主任者技能講習
平成28年2月24日(水)～25日(木)
会場 札幌市 かでる2・7
ご案内・募集は12月中旬頃～

おめでとうございます

岡本繁美氏 中小企業庁長官表彰受賞

北海道中小企業団体中央会創立60周年にあたり功労者として、札幌砕石共販協同組合の理事長を16年間にわたり務められ、安定した組合運営を支えた功績等を評価され受賞されました。平成27年8月27日（平成11年十勝砕石共販組合野田亮理事長受賞以来16年ぶり）



「編集後記」

本年度第二号の「北海道砕石だより」を皆様にお届けいたしました。第13回北海道砕石技術研究会の内容となっております。研究会には来賓、会員、賛助会員等百名ご参加を頂きました。ご協力に感謝いたします。次回の開催に当たりましては、会員の皆様のニーズにそった技術研究会となるよう検討して参りますので、皆様のご意見をお寄せ下さい。日ごとに寒くなり着衣も厚くなります。動きにくくなりますので安全作業に十分ご留意願います。
(事務局一同)